



R6年度 第1回よこすか PTA しゃべり場 記録

横須賀市PTA協議会

日時:令和6年7月20日(土) 13:00~16:00

場所:生涯学習センター(まなびかん) 大学習室

参加者:横須賀市立小・中学校 運営役員 29名 出席校 21校

司会:事業委員会 委員長 強力 陽(追浜中学校 PTA会長)

(以下敬称略)

会長挨拶

本日は土曜日の貴重な日に、令和6年度第1回のしゃべり場にご参加いただきましてありがとうございます。今年度より市P協会長を拝命しました、3部会鶴久保小学校PTAの石井と申します。どうぞよろしく願いいたします。

私は、PTAは約10年目となりまして、子どもが18歳、10歳、4歳がおり、まだまだ PTA には長く携わることができると思っております。市P協の会長になりまして約4ヶ月が経ちましたが、10年やっていた経験というのは、全く違っておりまして、現在は市P協としての忙しさもある中で、日々充実して過ごしているという次第です。

今日から夏休みに入られていると思いますが、各ご家庭もお忙しいとは思いますが、今回開催するしゃべり場で、ぜひ色々なご意見を共有していただければと思います。

元々しゃべり場というのは、横須賀市のPTAの99%近くが任意加入になりましたが、任意加入への移行、そしてPTA 再起動というのがスタートでした。元々全市PTA会長会議というのを開催していて、そこから副会長も参加できるようにし、昨年3回目の時には初のしゃべり場という形で、本当にざっくばらんに忌憚なき意見を話し合える場をとということで、開催をさせていただきました。今年度は本日を入れて3回予定しております。今後は9月、11月。9月は教育委員会の方にも参加していただき、色々な皆様と共有できる場を作りたいと思っておりますので、ぜひ次回9月の時にも、他のメンバーの方でも構いませんので、ご参加いただければと思います。

市P協は、本年3月で県P、日Pを退会いたしました。先日他市では、市P連の使途不明金問題というのがニュースに取りざたされました。市P連のお金の使い途を透明化するのも一つなのですが、各単Pの皆様も、PTA会費の使い方には苦慮されているかと思えます。そういった部分も今日のしゃべり場の中で、話をしていきながら活発な意見交換をしていただければと思います。本日有意義な会議になりますように、どうぞよろしく願いいたします。

本日配布の田戸小PTAパンフレットについて

●田戸小副会長 礎さん

田戸小は今年度より委員会という名前を無くしてチームという形になりました。内容としてはそんなに変わっていないのですが、見守りチームは校外、PRチームは広報、そしてイベントチームは今年初めてなのですが、保護者向けの講習会や給食試食会などを担当するチームになります。委員長や副委員長というリーダーがおりません。担い手がなかなかいないというところで、どうしたら良いかと考えた時に、チーム全体として自然発生的に、リーダーのような方が現れて、みんなでまとまっていくチームであって欲しいというところを目指してチームにしました。

現在半年過ぎて、色々メリットもありますし、デメリットも出てきました。リーダーがいないことによって、まとまらなかったり、まとまったとしてもすごく時間がかかる、という問題も抱えています。今回そういったところを、皆さんとも共有して色々お知恵を貸していただきたいという気持ちと、ここから委員会を無くしたり、委員長副委員長を無くした形でのPTAを考えている学校があれば、参考にさせていただければという思いで、パンフレットを配らせていただきました。

ぱっと見て、すごく華やかなパンフレットになっています。今までは白黒だったり、すごく内容が固かったりというのがあって、配るとそのままゴミ箱へというのがあって、すごく寂しかったのですが、できるだけ手に取って、少し家に保管しておこうかな、というようなパンフレットにしてみました。紙にもこだわって、捨てづらいパンフレットにしました。最後には年間の行事を書いて、もし自分がチームに入ったら、このくらいの活動があるのだな、というのがわかるようにしました。

今回が初めての試みだったので、これがどう捉えられたかというのはまだちょっとわからないですが、また来年もこういうパンフレットを作っていこうと思っています。明るくて軽やかなPTA、部活というかサークルとか、みんなで子どもたちを応援していこうというようなPTAになったら良い、というような思いを込めて作りました。よかったら参考にさせていただければと思います。ありがとうございました。

各テーブルからの発表

■4番

- ・初めての方が多く、緊張するかと思いましたが、最初から盛り上がり、楽しい話し合いができた。
- ・大人たちは色々なことをやってあげたいという気持ちを持っている。みんな子どもたちの笑顔のために、何かやりたい人たちの集まり。
- ・お祭系のイベントがやりづらい。
- ・学校の働き方改革で、先生の協力を得られづらいなど、どうしたら良いかななどの意見が聞けた。
- ・PTAが組織として、仲間としてしっかりまとまっていれば、学校と上手く、校長先生とも対等に、色々なイベントをやっているところもある。花火大会やお祭りなどやっている学校もあることを知れて、良い意味でショックを受けた。
- ・体育祭の後にミニ運動会を開催したり、30分間のPTA主催のイベントを行ったり、色々皆さん知恵を絞って、いろんなところにイベントを盛り込んだりして工夫している。
- ・中学生は地域で災害が起きた時に、地域を離れている大人に代わって地域で活動する。団結力や地域との連携もできるし、生徒や子どもたちの自覚も出てくるということも勉強になった。
- ・PTAのネット環境、Wi-Fiの導入など他校に聞けて良かった。
- ・お金が余っているという問題点も見えた。
- ・PTAはイメージアップを図り、新しく募る時に、自ら集まってもらえるような組織になれば良いと感じた。
- ・他校の役員会を見学に行きたいなと思ったし、このような場があって良かった。

■1番

- ・やはりPTAは生徒のみんなが楽しんでくれるということを目的として活動している。
- ・PTAの時代の変化もあり、先生との関係性、働き方改革にいかに合わせていくか、お金を使うにあたって、なかなか難しい面がある。子どもを育てながら、共働きながらも集まっている方もいる。いかに協力してイベントを開いていくか、色々難しい面もあるけれども、PTA活動をするのは、生徒達のためなので、そのために活動を

続けていくという目線で色々な話をした。

- ・PTA を続けるにあたって、PTA 活動の魅力を生徒や保護者、先生にも伝えることが、活動の継続に繋がると。活動ができて初めて生徒達に楽しんでもらえるということなので、どうすれば我々の魅力を伝えられるかという目線で具体的な話をした。
- ・小学校の事例。5、6年生から、PTA と先生にお祭りをやりたいという提案があった。それを実現するという形でお祭りを開催し、それが伝統になったという紹介があった。子どもたちからの発案というのは大きい。それが根付いていって、学校の総合学習の時間とも連携していく。
- ・中学校の事例。地域の夏祭りに出店を出すなど、PTA が協力している。生徒達の参加についても、会長が学校でアナウンスをして、参加してくれる人、協力してくれる人を募る。例えば盆踊りに参加者を出したり、売店の売り子を集めたりなど。また学校の中でも地域の盆踊りの先生が学校に来て、生徒達が習うという形で、総合学習的な位置づけでやって、それをPTAが協力するという形。
- ・PTA の活動を生徒達にアピールする中で、学校の内外、どちらでも活動できるのだな、というのを感じた。

■2番

- ・不登校について、PTA で何かできることがあるのではないかという話になった。横須賀市は全国平均の約1.5 倍の不登校や行き渋りという児童・生徒がいる。横須賀市には、そういった子ども達の居場所である相談教室がある学校が5校しかない。PTAで視察をしたり、PTA同士で繋がって何校かで協力しあって座談会などやれたら良いのではないかという話が出た。
- ・広報紙の在り方。紙質やデザインにこだわり、見てもらえる、捨てにくくする。年間予定を載せておけば、参加しても良いかなと考えてもらえる保護者が増えるのではないか。
- ・サポーター制に切り替えて行く流れにあるが、やはりサポーター制にすると、引き継いでくれる人がいない、主導する人がいないとなると、活動自体が途絶えてしまう。横だけではなく、縦でやる気のある人が繋がっていくことが必要。解決作はなかなか難しい。
- ・会費の使い道。お金が余っているところが多い。使い途としては、個人への記念品よりも、イベントだとか花火などで使っていけたら良いが、やはり全ての学校でできるわけではないので、難しいところではある。ただ、やはり子どもに還元していく方向に持って行きたいという話になった。

■3番

- ・マチコミ、ベルマークの件、委員会の件、お金の件、PTA 加入の運用、お祭りなどの話が出た。
- ・マチコミの話。PTA の専用アカウントを持っているところもあれば、持っていないところもある。公郷小はPTA でマチコミを運用しているので、そこで色々発信したり、アンケート取ったり、イベントの活動をしている。持っていないところは、色々な理由で持っていないかもしれないが、やっている自分の印象からすると、PTA のマチコミを有効活用することが、少ない人数で色々な情報を集めるには有効だと考えている。
- ・ベルマークの話。ベルマークをやめたところもある。公郷小もマチコミを使って、今年度ベルマークをやるか、やめるかのアンケートを取ったら、若干やるという人が多かったため、公郷小では継続した。ただやり方などの話も出たので、それをフィードバックしながら、活動していきたい。webベルマークの話も出た。
- ・委員会の話。だんだんPTA という活動自体が、敬遠されるようになってきている。そのため、役員を廃止したり、サポーター制にしたりなど話が出た。公郷小も、今年度からは会長と副会長4名の計5名しか、役員がいない。その都度でボランティアを、マチコミを使って募集するという形を取っている。
- ・会費についての使い途は、やはりお金が余っていて、どうやってお金を使おうか、という話になった。事例として、坂本中では全校にスポーツタオルを配っている。部活動の時なども統一した形で応援ができるし、みんなが

一つの同じ柄のカラーのタオルを持っているというのは、良いことだと思った。

- ・加入者の運用の話。加入非加入の問題も、色々と情報が出た。会員、非会員への対処の仕方、というところはケアをしていかないと、法的に問題があるなど勉強になった。
- ・お祭り関係の話。夏や秋のお祭りやイベントについて、なかなか時間が取れない、場所が無い、学校側の協力が得られないなどあった。
- ・最後に紹介してもらいたいのが、田浦小の件。田浦小が来年3月末で統合の方向になっているが、今年の夏に、田浦小で防災の意識を主題にして、4年、5年、6年が学校に泊まるというイベントを行った。ただ泊まるのではなく、防災意識を高めるということで、食事は防災食、寝るのも段ボールを渡して、子ども達が考えて寝床を作ったりした。昼間には、地域の消防に来てもらい、防災の意識を高めることになった。泊まらない1～3年に関しては、夕方まで参加。学校に泊まるということは、非常に良い思い出にもなり、防災の意識、本当に災害が起きた際に避難所になる小学校、中学校で、こういった形で避難所生活をしなければいけないのか、一度体験していると、災害が来た時にプラスになるのではないかと思ったので、田浦小のケースを紹介してもらった。

質疑応答

■久里浜小参加者

PTA 会費を学校の教材費と一緒に、学校に引き落としをお願いしているが、会費未納の方に対して、どのように徴収をするか、という問題が起きているところ。皆さんはどのように徴収しているか。

●公郷小参加者

公郷小は、去年までは銀行自動引き落としだったのが、今年から現金集金になった。1家庭につき1800円徴収。これを現金集金している。お金の集計は学校の先生がする。1度締め切りがあって集計し、学校からもらったお金を保護者の会計があっているか確認。未納者に関しては、再度学校に依頼して、払って下さいと催促している。720人くらい児童がいるが、若干10数名は未納な感じ。ただこれは学校側とも話をし、余り催促できない。2回紙で案内したくらいで、それからはまだ。現金集金なので、すごく大変。来年度はまだ未定だが、来年も現金集金の予定。未納者については、もう案内だけしか対応していない。

●顧問

公費と一緒に引き落とししている場合は、公費のほうも未納になっているので、学校が督促をするという運びになっていると思う。今までだと給食費と一緒に引き落とされているケースが多くて、その場合、未納分については校長が PTA 会費もまとめて立て替えるというケースが多かった。これはおかしいということで、今は公費から切り離されている。今は未納問題も起き始めていて、1回は催促して、その手紙の中に「いつまでにお支払いいただけない場合は退会とさせていただきます」という処理の仕方ではどうか。そうすると先生にも負担がかからないし、こういう方の中には元々払う気が無い方もいるので、その場合継続して何回も督促しなければいけないパターンになるので、1回は案内を出して、期限を決めて払ってもらえない場合は、退会とします、としたほうが負担が少ない。

●追浜中参加者

追浜中も一緒に引き落としされているので、振り込まれた分だけもらっている。

■公郷中参加者

坂本中でタオルを配られている話、とても良いと思った。一方で、公郷中は会費をかなり値下げしたので、1世帯徴収額が少ない。坂本中のタオルの真似をしたいと思うが、サイズ、金額、質感など、また学年ごとにカラーがあったりと思うが、カラーを変えているのか、統一しているのか、など教えて欲しい。

●坂本中参加者

今回タオルを配布したのは、コロナ禍でなかなか活動ができなくて、お金が余っていたというのが発端。今年度は1～3年生に、全て同じデザインカラーのタオルをあげた。来年新1年生にも同じデザインカラーであげる予定。学年カラーにする話も出たが、そうすると在庫管理が面倒になってしまうので、統一カラーにした。春先に体育大会があったが、体育大会の時には一般にも販売した。原価は530円だったが、500円で販売。大きさは幅が狭めのスポーツタオルで、ローマ字で坂本と書いてある。今年度、坂本中も委員会は委員長だけ決めて、クラスからの委員を募ることをやめてサポーターを募集している。そのサポーター募集のために、坂中の公式LINEを作ったので、そこで色やデザインのアンケートを取るなど参加型にした。生地は割とちゃんとしている。デザイン系の仕事をしている保護者の協力も得た。

■岩戸中参加者

田浦小で、子どもたちを学校で泊ませたという話。
岩戸中でも今年度検討をしている。実際災害が起きた時に学校が避難所になる。避難所に子ども達が泊まって、どういう風になるか、どういうことをするか、という経験をするということは、子ども達にとって有意義であるし、必ずこの先役に立つということで、経験をさせたいということで、今校長と計画をしているところ。
その計画をしていく中で、どういう計画をしていくべきなのか、横須賀市との連携であったり、やってみて何か問題点だとか、何か困った点など、小学生と中学生の違いはあるかもしれないが、田浦小のケースでアドバイスなど教えていただけるとありがたい。

●田浦小参加者

実はまだやっておらず、8/31に実施。ただ気をつけなくてはいけないことは見えてきている。小と中では大きく違うと思うが、体力的な面も含めて、私たちは高学年だけにした。
そもそも、今年閉校になるので、子どもを学校に泊ませたいということから始まった。ただそれだけでは話が通らないということから、防災を絡めていこうとなった。ただやはり良い経験になると私たちも思っているので、やるからには、心配ごとを一つずつ解決しながら、実りのある日にしたいと思っている。
その中の一つは、支援級の子も多にいる。さらには小学生なので、途中で帰りたい、という問題も出てくる。そうすると安全面が一番になってくる。危機管理がとても大事。私たちは、施設管理者の教頭先生には泊まっていたきたいと要望は出しているが、それ以外の教員の方には協力の要請はしていない。安全面のレクチャーは事前に私たちはやらなくてはならないし、消防の方達からもお話を聞いて、こういうところは気をつけてください、ということは事前に聞いて対応する。まずは大人たちが防災についてできなければいけないということで今動いている。
あとは食中毒の問題。本来災害が発生した際に食べられるものをチョイスして食べていこうと思っている。

●不明

PTA 単独で行うのか？地域とか横須賀市の協力は特に得ていないのか？

●田浦小参加者

協力してくださいと言ったが、逆にその経験値を地域に戻してくれ、と言われた。

●岩戸中参加者

岩戸中の場合は、PTA主催というより、避難所運営委員会としっかり絡めながら、要するに子ども達は地域の一員で、地域の構成員だよという自覚を芽生えさせるために、やりたいということが目的。

■坂本中参加者

自分は市P協の図書館ボランティア活性化委員会にも所属していて、汐入小で読み聞かせをやっている。汐入小の相談教室に月に1回程度、読み聞かせをやっている。その流れで坂本のゆうゆう坂本の相談教室にも今年度から読み聞かせに入る話になっている。そういった支援というほどのことではないが、何か気持ちがほっとする時間が持てる一助になればと思い、個人的な活動をしている。

会長総括

本日は長時間、各テーブルで色々な話をされたかと思いますが、いかがでしたでしょうか。各テーブルからの報告をいただき、少しアドバイスさせていただきます。

●PTA イベントについては、コロナでなかなか開催ができない、もしくはマンパワーが足りないというところや、先生の働き方改革で土日開催ができなかったり、先生の協力を得られないということもあります。参考としては、小学校では土建組合の親子工作教室を開催したり、起震車を呼んで、地震の体験など、できることを小さなことから少しずつやっていくのも必要なのではないかと思います。ただ地震体験は、トラウマになってしまうような問題もあるので、学校と色々と協議しながら、できることを開催していただければと思います。

●広報紙については、PTA 広報紙を中止していたり、PTA 便りにしたり、様々だとは思いますが、こちら各単Pに持ちかえていただき、できる範囲で作っていただくのが、必要かと思っています。

田戸小のパンフレットは、見やすく、会費もしっかりと載せてあったりなど、そういう中では、非会員の方にも配っていただいて、ちゃんとPTAはこういう活動をして、月々300円かかります、ということを目に見えるような形にするのは大事ではないかと思いますし、PTA 便りも本来はそういう役割があるものだと思っています。ぜひ単Pに持ち帰っていただき、参考にいただければと思います。

●PTA 会費については、話をしたら数時間、それでも結果が出ない話だと思っています。先ほども田浦小から話がありましたが、学校に泊まってみるという話の中でも、やはり防災減災が非常にクローズアップされています。PTA 会費から防災備蓄品や防災品の寄贈をしているところもあります。

水害を考えた場合、学校によっては、大体1番上の階に置くようになっている。その中でも学校の置き場所も使える教室が決まっている中で工夫が必要。子ども全員に防災用の防火カッパの寄贈した話も聞いている。これは期限もなくずっと置いておける、と言う点でメリット。

●お金の部分については、鶴久保小でも最近始めたが、在校生向けの進級祝い品という形で、1年ごと、学年が上がる時に、進級祝い品を全児童に配っている。預かった会費は、できる限りその年度の内に使い切ることが理想。

それができないから繰越金が増えてしまっているという問題がある。進級祝いも、各学年の先生と相談をして、授業で必要なものを選び、最終的に教頭・校長に相談して決める。先日マチコミでもあったと思うが、小学校で chrombook 用のタブレットペンを購入してくださいのがあった。もしその情報をもっと早く来ていたら、PTA 会費から捻出するののも一つではないかと思っている。

●会費額については、一番低いところは1000円台で、高いところでは4000円台もある。これは学校の規模や今までの流れもあるが、会費を限りなく下げて、預かる分で運営していくのも必要かと思う。

●各委員会については、ほとんどがサポーター制になっているので、昔みたいに(体育館を)締め切った形でやることは、多分小中共に無いと思う。私は高校でも PTA 会長をしているが、そこは体育館を締め切って役員決めをしている。役員が決まるまで帰れないパターン。今はできる人たちができる形で、というのが一番大事だとは思うので、その辺り、保護者からのクレームとかにならないように、体育館は開けていただいて、気持ちよくやっていただけるのが大事かと思います。

●皆様のお話を聞かせていただいて、まだまだ問題は山積みかと思います。最初の挨拶でも話したように、私は PTA10年やっていて、市P協会長4ヶ月目で、やること沢山あって、いろんな問題があって、でも充実している中で、私も色々勉強していますので、ぜひ今年あと2回、9月、11月と予定していますので、ぜひ今日来られなかった方たちにもお声がけいただきまして、参加していただければと思います。

●最後に、PTA はやはり保護者と教員で作っている社会教育団体であって、目的は子どもたちのため。今非加入世帯が多い学校も、少しずつ増えてきています。これから単Pが色々イベントを開催する中で、一つの提案としては、まず案内に加入、非加入の違い、会員であれば無料、非会員であればいくら、とはっきりと明記していただいて案内を出していただきたいと思います。

●今日せっかく集まっていますので、各部会の方にも共有していただきたいと思います。わからない中で作って発信してしまい、後からこうやって案内出してしまったが、どうしたら良いでしょうか、という問い合わせがたまにありますが、やはり、わからない時は事前に例えば市P協のほうにご相談いただければと思います。配布した後に質問が来ても、なかなかそこからの軌道修正は難しいので。

●今年度より「よこすかスマイル PTA」というスローガンを私の在任中は掲げさせていただいています。私たち大人が笑顔になれば、子どもたちにもそこは伝わるのではないかと。子ども達が笑顔になるように、私たち大人が笑顔でいることが大事だと思っているので、引き続きの市P協へのご理解とご協力を賜ればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

連絡事項など

■事業委員長 強力さん

今日のアンケートのQRコードが次第にあるので、ご協力をお願いします。

横の繋がりを作る場が市P協の存在意義と思ってやっています。やはりこのお忙しい中、お集まりいただいておりますので、なるべく実りのある有意義な時間を作りたいと思っています。今回いただいたアンケートは、2回目以降、また来年度に向けて、参考にさせていただきたいと思っています。

第2回のしゃべり場は、9月21(土)の午後、第3回目のしゃべり場は、11月19日(火)の午前中をご用意しております。勿論いただいたご意見など、残り2回に反映させていきたいと思っております。第2回第3回については、追ってご案内を出させていただきます。

■石井会長

最後に市P協募集中の事業についてご説明させていただきます。

①市P協広報紙103号、夏休み前に発行。

早寝早起き朝ご飯について書かせていただきました。早寝早起き朝ご飯全国協議会は、文科省と連携して活動しています。昨今、早起きして朝食を食べて、ということができない子どもが増えている中で、今回メラトニン分泌が大事という話をさせていただいていますので、ぜひ読んでいただければと思います。

②ピンクシャツデーのチラシ。

横須賀市人権・ダイバーシティ推進課がやっているが、上地市長が、特にピンクシャツデーに力を入れているようです。ピンクシャツとは、いじめ防止のPR。先日不入斗中でスマホの講師をしたが、スマホもやはりSNSのいじめがあり、その話をした時に、6月26日はピンクシャツデーだったか知っていますか？と聞いたら、ほぼ全生徒が手を上げるくらい知っていた。市P協としても、いじめについては力を入れさせていただき、皆様にお伝えをさせていただいています。親の行動も重要。子ども達は結構いじめだと思っていなくて、いじめをしてしまっているところもあるので、ぜひ食事の時にコミュニケーションを取りながら、お子さんたちと色々な話をしてもらおう一つにしてもらえればと思います。

③夏休み、スマホ・SNS ポスターを募集します。この秋に、スマホ・SNS 川柳コンテストをやりますが、その開催案内に使用するポスターになります。今日来られている皆様のお子様には、ぜひ一作品応募していただけるようお声がけをいただければと思います。

④他に、現在食育講座や夏休みのスマホ講習会募集しておりますので、市P協のHPをご覧ください。

秋には、保護者も対象としたスマホ・SNS 川柳コンテスト開催、12月には神奈川県警本部、市教委に参加していただき、スマホ・SNS フォーラムよこすか2024を開催予定となっております。詳細が決まり次第、また周知させていただきます。

以上をもちまして、令和6年度第1回よこすか PTAしゃべり場を終了したいと思います。

ありがとうございました。